

様式7

平成22年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010-W-08

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 新たな地殻活動観測の展開

英文: _____

4. 研究代表者所属・氏名 九州大学大学院理学研究院附属島原地震火山観測研究センター・松本 聡
(地震研究所担当教員名) 酒井慎一

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
松本 聡	九州大学大学院理学研究院附属島原地 震火山観測研究センター・准教授	研究集会発表	9月28日～9月30日	2	有
松島 健	九州大学大学院理学研究院附属島原地 震火山観測研究センター・准教授	研究集会発表	9月28日～9月30日	2	有
中元 真美	九州大学大学院理学研究科・博士後期 課程1年	研究集会参加	9月28日～9月29日	2	有
中島 淳一	東北大学大学院理学研究科地震・噴火 予知研究観測セン ター・准教授	研究集会発表	9月30日	1	有
片尾 浩	京都大学防災研究所地震予知研究セン ター・准教授	研究集会発表	9月29日～9月30日	2	有
鷺谷 威	名古屋大学地震火山・防災研究センタ ー・教授	研究集会発表	9月29日～9月30日	2	有
寺川 寿子	名古屋大学地震火山・防災研究センタ ー・助教	研究集会発表	9月28日～9月30日	2	有
酒井 慎一	東京大学地震研究所・准教授	研究集会発表	9月28日～9月30日	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：臨時緊急観測、地殻活動、地震発生場

研究集会の概要：

地震発生物理モデルを作成し、シミュレーションによって地震発生予測を行うためには、地震発生の全体像（断層破壊、地震波伝播、地表変形、ひずみの解放、断層ヒーリング、ひずみ蓄積、破壊核形成等）および地震発生場（地震断層の物性、断層周辺の物性、地下構造等）を理解することが必要である。このモデル構築のために必要な要素を得る手段の一つとして観測がある。基盤的地震観測網やGEONETといった均質で安定した連続観測データが整備されている現状のもと、臨時観測をすることによって得られる情報は何か、何を観測すべきなのかを模索した。地震発生と地震発生場を理解するためには何を明らかにすべきか、既存の定常観測網をどう活用し稠密な臨時観測をどう展開するのか、どんな機器があれば新たな物理量を捉えることができるのかを議論し、想定地震に対する具体的な地殻活動観測の展開を目指した13名の講師による講演とその後の総合討論などが行われた。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

酒井慎一ほか、2010年7月23日に千葉県北東部のプレート境界で発生した地震は正断層型の余震が多かった、2010年日本地震学会秋季大会、謝辞の記載なし、2ポイント

松本聡ほか、福岡県西方沖地震の余震発震機構特性と応力場モデル化の試み、2010年日本地震学会秋季大会、謝辞の記載なし、2ポイント

松本聡ほか、中竜鉦山地震計アレイ観測による濃尾地震断層周辺域の地殻内散乱体分布の推定、2010年日本地震学会秋季大会、謝辞の記載なし、2ポイント